



## 令和3年度 川崎市病院事業会計決算（見込）の概況

### ○ 決算見込みのポイント

◎病院事業全体（市立3病院計）の経常損益は、入院・外来収益が増加したものの8億713万円の経常損失となりました。また、病院事業全体の純損益は、新型コロナウイルス感染症に係る補助金などにより54億1,515万円の純利益となりました。

市立3病院の経営成績（税抜き）

（単位：円）

科目	川崎病院	井田病院	多摩病院※	病院事業合計
総収益	25,983,573,204	12,056,519,546	1,987,020,053	40,027,112,803
医業収益	19,071,790,577	7,122,044,115	1,002,207,504	27,196,042,196
医業外収益	3,351,292,694	2,096,189,683	884,655,963	6,332,138,340
特別利益	3,560,489,933	2,838,285,748	100,156,586	6,498,932,267
総費用	22,128,296,126	10,791,473,252	1,692,195,764	34,611,965,142
医業費用	20,903,346,516	10,123,000,366	1,401,252,969	32,427,599,851
医業外費用	1,067,346,647	561,373,458	278,987,737	1,907,707,842
特別損失	157,602,963	107,099,428	11,955,058	276,657,449
経常損益	452,390,108	△ 1,466,140,026	206,622,761	△ 807,127,157
純損益	3,855,277,078	1,265,046,294	294,824,289	5,415,147,661

※多摩病院は利用料金制を採用しているため、多摩病院の診療収益は市病院事業会計の決算に含まれておりません。

### ○ 患者状況・診療収益状況

◎川崎病院、多摩病院では、入院及び外来収益が増加しました。

◎井田病院では、新型コロナウイルス感染症に対応するため不急の手術等の制限や休床による稼働病床の減少により、入院及び外来患者延人数が減少し、入院及び外来収益が減少しました。

	入院患者延人数	外来患者延人数
川崎病院	161,715人（6,525人増）	288,859人（22,617人増）
井田病院	76,576人（16,002人減）	140,373人（2,203人減）
多摩病院	85,463人（334人減）	203,135人（16,380人増）

	入院患者実人数	1人平均入院日数
川崎病院	13,165人（790人増）	12.3日（0.2日減）
井田病院	5,248人（118人減）	14.6日（2.7日減）
多摩病院	7,944人（638人増）	10.8日（0.9日減）

	入院収益（税抜き）	外来収益（税抜き）
川崎病院	124億3,683万円（16億386万円増）	52億5,055万円（9億2,249万円増）
井田病院	41億3,022万円（3億8,446万円減）	25億833万円（2億210万円減）
多摩病院	57億4,361万円（3億7,931万円増）	28億9,957万円（2億4,868万円増）

## ○ 業務状況

市立3病院では、市の基幹病院又は地域の中核病院として、公共の福祉の増進と経済性の発揮を基本としながら、高度・特殊・急性期医療や救急医療等を継続的かつ安定的に提供するとともに、災害、研修教育等の対応を含めた医療行政施策を推進し、また地域医療機関との連携を進めるなど、本市の医療水準の向上に寄与できるよう取り組んでいます。

このような中、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の市中感染等の広がりを受け、神奈川県が構築した緊急医療体制である「神奈川モデル」の高度医療機関及び重点医療機関として、既存病床を新型コロナウイルス感染症専用病床に転換するなど、流行状況に応じた柔軟な対応を行いながら、年度当初から感染症患者の入院受入れを積極的に行うとともに、通常診療との両立に取り組みました。さらに、感染症患者の入院調整等を行う調整本部への人員派遣や、市内医療機関に勤務する医療従事者へのワクチン接種を実施し、福祉施設・事業所に対する感染症防止対策の指導・研修を主眼とした出前講座を実施するなど、様々な面で新型コロナウイルス感染症に対応してまいりました。

本市病院事業においては、公立病院として新興感染症への対応が求められる中、地域に必要な医療を安定的かつ継続的に提供するとともに、更なる経営改革と経営健全化を図るため「川崎市立病院経営計画 2022-2023」を策定しました。

◎川崎病院においては、小児から成人・高齢者・妊産婦等への一般医療、精神科救急医療を提供するとともに、令和3年8月に認知症疾患医療センターを開設し、認知症に関する早期発見・早期治療、本人や家族に対する相談支援等を行う体制を強化しました。また、令和3年2月にエネルギー棟建築工事に着手、令和4年2月に給水ポンプ棟建築工事に着手しました。

◎井田病院においては、増大するがん等の成人疾患医療、救急医療、緩和ケア医療などの一般診療を提供するとともに、地域の在宅療養患者の緊急時の受入れを行う在宅療養後方支援病院として、地域の在宅医をサポートする取組を進めました。また、令和2年度から開始した外構工事、バスロータリー他構内改修工事等が完成し、概ね井田病院再編整備事業は終了しました。

◎多摩病院においては、小児救急を含めた救急医療を中心に、高度・特殊・急性期医療、アレルギー疾患医療等の一般診療を提供するとともに、地域医療支援病院として引き続き地域の医療機関との連携に努めるなど、北部地域の中核病院としての役割を果たしています。また、手術支援ロボットを使用した手術を開始するとともに、Wi-Fi環境を整備し、入院療養時や診療待ち時間に活用できるようにしました。

## ○ 主な建設改良

◎川崎病院では、排水処理設備更新工事を実施したほか、自動火災報知設備の改修（令和4年度に終了予定）を進めています。井田病院では、外構工事やバスロータリー構内改修工事を実施しました。

◎医療器械については、川崎病院及び井田病院において、高精度放射線治療装置（リニアック）、総合医療情報システム（電子カルテ）等を更新しました。

【問合せ先】 川崎市 病院局 経営企画室 経理担当 亀山  
電話 044-200-3855



令和3年度 病院事業会計決算（見込）のポイント（税抜き）

<病院事業全体>

			令和3年度決算 (見込)	令和2年度決算	増 △減額	増 △減率	備 考
1 収益的収入			400億2,700万円	368億6,100万円	31億6,600万円	8.5%	
主な 収入	入院収益	165億6,700万円	153億4,800万円	12億1,900万円	7.9%	患者延人数、診療単価の増加による川崎病院の増	
	外来収益	77億5,900万円	70億3,900万円	7億2,000万円	10.2%	患者延人数、診療単価の増加による川崎病院の増	
	他会計繰入金	59億5,000万円	60億 300万円	△5,300万円	△0.9%		
2 収益的支出			346億1,200万円	335億9,600万円	10億1,600万円	3.0%	
主な 支出	給与費	161億2,300万円	159億2,100万円	2億 200万円	1.3%		
3 経常損益			△8億 700万円	△16億3,600万円	8億2,900万円	50.7%	
内訳	川崎病院	4億5,200万円	△6億4,000万円	10億9,200万円	170.7%		
	井田病院	△14億6,600万円	△11億5,000万円	△3億1,600万円	△27.5%		
	多摩病院	2億 700万円	1億5,400万円	5,300万円	34.4%		
4 純損益			54億1,500万円	32億6,500万円	21億5,000万円	65.8%	
内訳	川崎病院	38億5,500万円	25億 600万円	13億4,900万円	53.8%		
	井田病院	12億6,500万円	5億7,300万円	6億9,200万円	120.8%		
	多摩病院	2億9,500万円	1億8,600万円	1億 900万円	58.6%		

(注) 増△減率が正の場合、収支は改善している。負の場合、収支は悪化している。

5 資金不足比率	— (資金不足となっていない)	— (資金不足となっていない)			参考：財政健全化法における経営健全化基準 20%
----------	--------------------	--------------------	--	--	--------------------------

※ 金額については百万円未満を四捨五入（一部、端数調整有り）

※ 増減率については小数点第2位を四捨五入